

2025年3月2日

「英霊の名誉を守り顕彰する会」主催
(於・文京シビック・センター学習室)

国際政治経済学者 山下英次
「日本の真の独立を目指す有識者会議」(ECAJTI) 創業者・副議長
大阪市立大学名誉教授・経済学博士

〈西尾幹二先生追悼〉GHQ 禁書は何を意味するのか？ ：これらを読まずして真の近現代史は理解できない

(目次)

はじめに：あなたは GHQ 禁書を読んだことがありますか？

1. 西尾幹二の労作『GHQ 焚書図書開封』全 12 巻
 2. GHQ 禁書の遣り口と経緯
 3. GHQ は、どのようなカテゴリーの本を禁書にしたのか？
 4. GHQ 禁書の意味
 5. 大川周明『米英東亜侵略史』
 6. その他の GHQ 禁書
- おわりに

はじめに：あなたは GHQ 禁書を読んだことがありますか？

- ・合計 7,000 冊以上（実際には 8,000 冊以上かも？）にのぼる GHQ 禁書を 1 冊も読んだことがない人は、近現代史を語る資格なし
 - ；それは、あなたが、例え歴史学者であろうとも、あるいは学校の歴史の先生であろうとも、例外ではない。
 - ；GHQ 禁書には歴史の真実が書かれているが、GHQ にとって都合の悪い本は禁書にされた。
 - ；GHQ 禁書を読んだことがないとしたら、そういう人は、GHQ が許可した本およびその子孫のような本しか読んだことがないはず
 - 近現代史の真実の重要な部分を知らないことを意味する
 - ；歴史学者とか、学校の歴史の先生に限って、GHQ 禁書を 1 冊も読んだことがない人がほとんどではないだろうか。

1. 西尾幹二の労作『GHQ 焚書図書開封』全 12 巻

- ・本書（徳間書店、2008 年～2015 年）のベース

= (株) 日本文化チャンネル桜『GHQ 焚書図書開封』シリーズ (200 回以上) のテレビ放映の録画

* 「チャンネル桜」社長の水島 総 (さとる) 氏は、2,000 冊以上の GHQ 禁書のコレクションがあるので、あるときに西尾教授に打診したところ、二つ返事で GHQ 禁書を番組で取り上げるようになった (2025-02-01 「西尾幹二さんとのお別れ会」における水島氏の挨拶)。

・戦後日本の歴史認識

；小児病的反戦平和主義

；司馬遼太郎は、「(戦後日本の) 小児病的反戦平和主義を破壊する上で、強力な役割を果たしたことを認めるに吝かではない」(第 12 巻、p. 414)

；しかし、司馬の歴史観にある 2 区分法を厳しく批判 (第 12 巻、〔付論〕、pp. 412-414)

－日清・日露までの日本は良かった

－しかし、それ以降 (特に昭和初期から敗戦まで) の日本はダメになった

→ 当然のことながら、連続したものとして、歴史を認識する必要がある

2. GHQ 禁書の遣り口と経緯

・1946-03-17、第 1 回目の GHQ 覚書 (SCAPIN*- 824) 「宣伝用刊行物 (プロパガンダ本) の没収」、最初の GHQ 指令

* = 連合軍最高司令官 (SCAP) 指令 (Directive) の文書番号 (Index Number)

；英語 = "Confiscation of Propaganda Publications"

* 禁書 = forbidding books (forbidden books)

* 焚書 = burning books (burnt books)

・逐次、没収指示本が追加され、1948-04-15、第 48 回目の GHQ 覚書が最後

；GHQ から日本政府に対する没収指令

；実際の没収作業は、都道府県が主権回復 (1952 年 4 月) の頃まで行った

・対象とした本：1928-01-01～1945-09-02* に発行された約 22 万冊

；そのうち、全部で、7,000 冊を優に超える本が、GHQ によって禁書に指定

* = 戦艦ミズーリにおける降伏文書の調印日、すなわち占領統治の開始日

・没収の事実を秘匿するため、すでに図書館や一般家庭にある本は、基本的に没収の対象とせず (極めて陰険なやり方)

- ；禁書は、本来、文明社会が決してやってはならない歴史の破壊行為
- ；没収対象＝出版社在庫、書店や倉庫、流過程（含む・輸送中の物）、政府・諸官庁にあるもの

・ GHQ のどの部門が禁書の指定を担当したのか？

- ； CIE（民間情報教育局）＝ WGIP などを担当する洗脳部隊
- ； CIS/ CCD（民間諜報局/ 民間検閲支隊）＝ 検閲部隊
この下のプレス・映像・放送課（PPB）
- ； さらにその下の 調査係（Research Section, RS） が担当
 - ・・・ 僅か米軍軍属 6 名が所属
 - ここが、すべての没収図書指定に従事
 - それには、多くの日本人が協力した
- ； 指令は、日本政府宛ての没収指示
 - 日本政府は、東大（総長＝南原 繁）に協力要請

- ・ 日本人協力者の存在・・・全面的に協力した東大の教授たち
- ； 日本人協力者が関与して以降、没収指定冊数が飛躍的に増大

・ 出版物追放のための日本人による委員会

- ； 本委員会 @ 首相官邸内
 - 委員長＝東大名誉教授・牧野英一（刑法学）、1878 年生まれ
- ； 小委員会 @ 帝国図書館館長室
 - 館長＝岡田 温（ならう）、東京帝大文学部卒、1902 年 6 月生まれ
 - 委員＝金子武蔵、東大文学部助教授、1905 年 1 月生まれ
 - 委員＝尾高邦夫、東大文学部助教授、1908 年 10 月生まれ
 - 父・尾高次郎＝渋沢栄一の娘婿で実業家
 - 弟＝尾高尚忠（作曲家・指揮者）甥＝指揮者・尾高忠明の叔父

3. GHQ は、どのようなカテゴリーの本を禁書にしたのか？

- ① 米英両国が、いかに侵略的・拡張主義的で残虐な帝国主義国家であったか、その延長として、否応なしに日本を戦争に追い込んでいったのだということを示した本
- ； 戦争を仕掛けたのは日本ではなく、米英両国の仕業
- ； こうした本は多数あるが、その典型例
 - ＝大川周明『米英東亜侵略史』、第一書房、1942 年 2 月

なかしろうじ
仲小路 彰* 『太平洋侵略史』全 6 巻、戦争文化研究所、1939～1943 年

* = 合計 22 冊が禁書指定 (GHQ 禁書冊数ランキング第 2 位)

第 1 位 = 野依秀市 (ジャーナリスト)、計 23 冊

伊藤^{しちじ}七司、『米国の対日謀略史〈復刻版〉』、経営科学出版、初版 = 非凡閣、1944

年 10 月

福澤桃介『西洋の没落：東洋の勃興』、ダイヤモンド社、1932 年 7 月

西尾『GHQ 焚書図書開封 第 8 巻：日米百年戦争 ペリー来航からワシントン
会議』、徳増書店、2013 年 8 月

－大東亜戦争調査會 (編) 『米英の東亜制覇政策』、毎日新聞社。1943 年
12 月、GHQ 禁書

－大東亜戦争調査會 (編) 『米國の世界侵略』、毎日新聞社。1944 年
5 月、GHQ 禁書

西尾『GHQ 焚書図書開封 第 9 巻：アメリカからの〈宣戦布告〉』、徳増書
店、2014 年 3 月

－大東亜戦争調査會 (編) 『米英挑戦の真相』、毎日新聞社。1943 年 6
月、GHQ 禁書

－大東亜戦争調査會 (編) 『米英の東亜攪乱』、毎日新聞社。1943 年
9 月、GHQ 禁書

西尾『GHQ 焚書図書開封 第 10 巻：地球侵略の主役イギリス』*、徳間書店、
2014 年 12 月 * = 合計 241 冊 (付録 1~8)

；しかも、いまでは米国側の資料でも明らか

(例) 1906 年以來の極めて好戦的な「オレンジ戦争計画」(対日戦争計画)を、第二次
世界大戦直前まで長年改定しながら策定し続けてきた米国(エドワード・ミラー
[2024 (1991)])。

；対日警戒感は、日清戦争(1884~1885 年)で日本が勝利した直後から高まった。

；とりわけ、日露戦争(1904~1905 年)における勝利

当時、世界最強と言われたロシア陸軍と陸戦(奉天会戦)で勝利しただけでなく、海
戦(日本海海戦)でも勝利した日本に対する人種差別を伴った米国の警戒感↑

；歴代の「オレンジ戦争計画」では、特に合理的な戦争目的というようなものはなく、(有
色人種の中で唯一成功した)日本を、とにかく叩きのめすという極めて暴力的な発想

② 開戦時、日本の開戦理由の正当性を訴えた本

；開戦理由 = 東条首相の「大東亜宣言」、1942-01-21 (国会)

「大東亜共栄圏を建設し、全世界の被圧迫民族を英米の帝国主義の桎梏から解放す
る」(これが日本の戦争目的)

；来栖三郎『大東亜戦争の発火点：日米交渉の経緯』、大阪毎日新聞社、1942年12月
；西尾『GHQ 焚書図書開封 第6巻：日米開戦前夜』、徳間書店、2011年11月

③ 大東亜共栄圏を唱えた本

；(例)『大東亜共同宣言』、など

④ 日本の神話と皇室、『国体の本義』、『教育勅語』

；西尾『GHQ 焚書図書開封 第4巻：〈国体論〉と現代』、徳間書店、2010年7月、
禁書合計208冊をリスト・アップ(付録1-6)

；(例)文部省(編)『国体の本義』、1937年、など

⑤ 日本が素晴らしい歴史と文化・伝統を持った国であり、国民の道德観・倫理観も優
れていることを示した本

；水戸学*および『大日本史』関連の本=計40冊(西尾『GHQ 焚書図書開封』第11
巻、付録2) * =後期水戸学は、明治維新の志士たちに大きな影響を与えた

；中山忠直『我が日本学〈復刻版〉』、嵐山荘、1939年7月

⑥ 支那関係の本；計403冊(西尾『GHQ 焚書図書開封』第7巻、付録)

中国問題の研究者(陸軍士官→拓殖大学教授)・長野 朗(あきら)の著作=計18冊

⑦ 満洲に関する本

；西尾『GHQ 焚書図書開封 第5巻：ハワイ、満洲、支那の排日』、徳間書店、2011
年7月、禁書合計293冊をリスト・アップ(付録1-8)

⑧ ユダヤ批判に関する本

(GHQ 禁書リストの一部)、cf. 澤 龍 [2005]、pp. 403-404

；長谷川泰造『ユダヤの対日謀略〈復刻版〉』、晴南社、1944年9月

；エス・ニールス『ユダヤ議定書(二) 不法の秘密：反基督の印章』、破邪顕正社、
1943年6月

；O. クライント『ユダヤ人のアメリカ発展』、千峰書房、1942年7月

；A. ストックス『猶太と日本の戦ひ』、政教社、1938年8月

；愛宕北山『猶太の世界支配綱領』、政勁書房、1941年12月

；^{はづみ} 畚見一郎『猶太禍の世界』、霞関書房、1941年6月

；ローゼンベルグ『猶太シオン運動の真相』、富強日本協會、1943年6月

；勝井辰純『猶太人の陰謀と排日問題』、久榮堂、1924年8月

4. GHQ 禁書の意味

- ・ 基本的には、日本の歴史の中で、連合軍にとって都合の悪い部分を抹消することが
GHQ の目的 = 日本の 歴史の改竄
； 卑劣かつ文明国家に非ざる極めて悪辣な行為
- ・ GHQ 禁書を読まずして、日本の近現代史は理解できない
； いや、日本の近現代史のみならず、世界の近現代史も理解できない
- ・ 戦後 GHQ が没収しなかった本とその子孫に当たるような本だけしか、基本的には発行
されてこなかった
→ そうした本しか読まなかった人は、真の近現代史は理解できない !!
- ・ 多くの歴史学者と学校の歴史の先生に、果たして歴史を語る資格はあるのか？
； こういう人たちの多くは、GHQ 禁書を 1 冊も読んだことがないと言う人が大多数で
あろう
； しかし、そうした人たちに、近現代史を語る資格はない !!
∴ 真の近現代史を知り得る筈はないのだから
- ・ GHQ 禁書は、基本的には、真実が書かれているからこそ、没収されたのだ
； 真実だが、連合軍にとって都合の悪いことが書かれている本 = GHQ 禁書

5. 大川周明『米英東亜侵略史』

- ・ 大川周明『米英東亜侵略史』（第一書房、1942 年 1 月）
； 当時 55 歳の大川が、日本政府に依頼されて、日米開戦直後の 1941 年 12 月 14 日～12-
月 25 日までの 12 日間にわたって、NHK ラジオで連続講演した。
→ 大川の講演を書籍化したものが、戦後、GHQ 禁書に指定
- ； 大川は、5・15 事件（1932 年）のイデオログとして、有罪判決を受け、禁固刑にも
服した前科者であったが、当時の日本政府は、この大役について大川に白羽の矢を立て
た。
- ； 『米英東亜侵略史』のベースとなった大川の著書
大川周明『亜細亜・欧羅巴・日本』（大東文化協会、1925 年）
大川周明『近世欧羅巴植民史』（慶應書房、1941 年 10 月）
- ； 4 年後に、GHQ による『真相はかうだ』放送開始
僅か 4 年後に、同じ NHK から大川の連続講演とは真逆の内容（歴史観）の放送が
開始された

→ その後、80年を経過したが、現在のNHKの歴史認識に関する放送内容は、終戦直後、真逆になったまま

- ・戦前の重要な学者であったが、戦後はほとんど忘れられた存在となった二人の学者
 - ∴ 戦後、日本人に自虐史観の浸透
 - ；大川周明、8冊がGHQ禁書に
 - ；仲小路 彰（なかしょうじ・あきら）、22冊がGHQ禁書に
 - GHQ禁書の最多は、23冊の野依秀市（ジャーナリスト）
- ・ダイレクト出版の動画解説『GHQ 焚書アーカイブス・シリーズ』で、山下が最初に解説を担当したのが、この大川の『米英東亜侵略史』（2022年10月配信）
 - ；この本は、いわばGHQが禁書にしたかった本の本命なので、取り上げるべきことを、山下の方から提案
 - ；GHQ禁書を取り上げるとしたら、本来、大川と仲小路が本命のはず
 - ・・・二人とも、五校（熊本）から東京帝大へ

【大川周明の略歴】

- ・1912年（25歳）、岡倉天心の『東洋の理想』（1903年）を読んで強い刺激を受ける。
 - ；日本人の卓越した文化的想像力を発見し、日本による世界文明の完成という文化的使命感を強く抱くようになる。
- ・1913年（26歳）、英国人ヘンリー・コットン卿の『新インド』を読んで、英国の悪辣かつ過酷な植民地支配に憤慨
- ・1915年（28歳）、インド人で英国からの独立運動の志士ヘーランダ・ラール・グプタやラース・ビハーリ・ボース（中村屋のボース）と出会い、大きな影響を受ける
 - のちに大アジア主義を唱えることになる
- ・1925年（38歳）、満川亀次郎、安岡正篤まさひると共に、行地社を創立し、大アジア主義を唱える
- ・復刻版・現代語訳が、最近、ダイレクト出版から発行された
 - ；解説（18 pages） by 山下英次
 - ；2025-02-24 発売開始（現在、Amazonで発売中）

【大川とその主張】

- ・大川は、深い教養と見識を備えた一流の学者
；海外の最新の文献を広く読み、当時の国際情勢をよく理解
- ・大川は、ワシントン会議（1921～22年）以降、対米譲歩を繰り返した日本外交を厳しく批判
- ・大東亜戦は、単に資源獲得など経済的利益のための戦争ではなく、東洋の最高なる精神的価値、文化的価値のための戦いである。
- ・大東亜戦は、東洋の敵たる米英と日本の戦いである。

6. その他の GHQ 禁書

- ・板垣退助『立国の大本』（忠誠堂、1919年9月）
；山下が、ダイレクト出版の『GHQ 禁書アーカイブス・シリーズ』で解説を担当、2024年2月配信
；明治の元勳・板垣が、死の直前に、国民に対する遺言として残したもの
；1919年（大正8年）7月16日、板垣の逝去（享年82）ゲラを自身で最終校正した後、本書の発行前に他界
；その後、何回か再版されているが、1932年（昭和7年）4月に再版された本が、戦後、GHQによって禁書に指定される
- ・『立国の大本』＝「国の独立の基本」と言ったような意味あい
；これも、「国の真の独立」を標榜する私の方から提案した本
- ・日本の国家体制においては、君民の関係は、あたかも親子のように先天的に決まっている
；歴史的に自然に発生した特殊なもの
；世界中で最も優れた理想的なもの（体制）
- ・普通選挙の弊害を取り除くためとして、戸主選挙制（家長選挙制）を提唱
→ 日本は、封建的・家父長主義でケシカランと考える GHQ とは相容れない部分
- ・福澤桃介『西洋文明の没落：東洋文明の勃興』（ダイヤモンド社、1932年7月）、復刻版＝ダイレクト出版、2022年11月
；桃介＝福澤諭吉の次女の婿養子、実業家で日本の電力の父、20冊以上の著書があるが、GHQ 禁書になったのはこの1冊のみ

- ；山下が、ダイレクト出版の『GHQ 焚書アーカイブス・シリーズ』で解説を担当、2025年2月配信
- ；西洋の強欲、人種差別を伴った植民地支配の過酷さを厳しく批判する内容
- ；精神文明は、東洋の方が優れているとの主張

- *2024年12月8日、ダイレクト出版動画シリーズ「GHQ 焚書アーカイブス・シリーズ」3周年記念シンポジウム、於・大手町サンケイ・プラザ
- ；登壇者＝小堀桂一郎、田中英道、山下英次、片山杜秀、大場一央
(ちなみに、前者3名は、ECAJTIの議長・副議長)
- 司会者＝葛城奈海、久野潤

おわりに

- ・日本は、第二次世界大戦で、アメリカに実に酷い目に遭わされたことは事実
 - ；日露戦争（1904～1905年）で、日本が陸戦（奉天会戦）でも海戦（日本海海戦）でも勝利
 - 米国は、人種差別意識を伴った日本に対する強い敵愾心を抱くようになる
 - ；1906年からWW2開戦直前まで、日本を仮想敵国とした極めて好戦的なオレンジ戦争計画を作成
 - *ここでの戦争目的＝とにかく日本を叩きのめすこと
 - ；米国は、日本を徹底的に真珠湾攻撃に追い込んでいった
- ・そもそも、それ以前に、1937年開始の日中戦争
 - ＝実質的には、「日本 vs. 米英」戦争 or 「日本 vs. 米英露」、代理戦争
 - ・・・この認識は極めて重要
 - ；蒋介石軍を犠牲にして、日本軍を弱体化させようとする極めて悪辣かつ底意地の悪い米英（露）の戦略
 - ；GHQは、こうした事実をどうしても隠したかったはず
 - 支那関係の禁書 403冊
 - 満洲関係の禁書 293冊
- ・その結果、WW2で、官民合わせて310万人の日本人が死亡
- ・加えて、戦後、GHQがWGIPで日本を悪者にした
 - ；日本＝侵略国、「米国＝善/日本＝悪」との決めつけ
 - ；しかし、歴史の真実は、真逆だったのではないか？
- ・加えて、GHQは、日本人の国家意識の喪失を目的としたWGIP（War Guilt

Information Program) を展開し、それはかなりの程度成功してしまった。

- ・ 日本にとっての WW 2 の戦争目的
 - ； 自存自衛
 - ； アジアの開放 from 英米の植民地支配の桎梏
- ・ 日本人は、史実を基に米国に対して正しく深く憤れ !!
 - ； これをバネにして、真の独立国を目指せ !!
- ・ 日本人は、米国に対して後ろめたい気持ちを持つ必要は全くない
 - ； 史実を基に、堂々とアメリカを非難して構わない
 - ； 戦後、日本人は、「なぜアメリカと戦ったのか？」ということばかり反省してきた
 - むしろ、「なぜアメリカは日本を叩きのめすことを決めたのか？」と問うべき
- ・ しかしながら、これも重要なことであるが、日本人は決してルサンチマン（怨念）を抱いてはいけない
 - ∴ 怨念を抱き続ける者を待ち受ける将来は、ただ戦いあるのみ

【参考文献】

- ・ 板垣退助 [2020 (1919)]、『立國の大本〈復刻版〉〈現代語訳〉』、(一社) 板垣退助先生顕彰会 (非売品)、2020 年 2 月、初版=東京忠誠堂、1919 年 9 月、3 版= (財) 板垣伯銅像記念碑建設同志會 (非売品)、1932 年 4 月、GHQ 禁書
- ・ 伊藤七司 [2023 (1944)]、『米国の対日謀略史〈復刻版〉』、経営科学出版、2023 年 11 月、初版=非凡閣、1944 年 10 月、GHQ 禁書
- ・ 大川周明 [2024 (1942)]、『米英東亜侵略史〈復刻版〉〈現代語訳〉』、山下英次 (解説) ダイレクト出版、2024 年 11 月 (発売=2025 年 2 月 24 日)、初版=第一書房、1942 年 1 月、GHQ 禁書
- ・ 海軍省海軍軍事普及部 (編) [2023 (1937)]、『支那の対日宣伝策：支那における攻防と新聞事業の統制〈復刻版〉』、経営科学出版、2023 年 5 月、初版=海軍省海軍軍事普及部、1937 年 10 月、GHQ 禁書
- ・ 澤 龍 (編著) [2005]、『増補改訂 GHQ に没収された本〈総目録〉』、サワズ & 出版、2005 年 9 月
- ・ シオボールド、ロバート・A.、[1954 (1954)]、『真珠湾の真実：真珠湾奇襲はアメリカの書いた筋書きだった』、中野五郎 (訳)、大日本雄弁会講談社、1954 年 8 月、原著発行=Robert A. Theobald, *the Final Secret of Pearl Harbor: the Washington Contribution to the Japanese Attack*, Devin-Adair, Apr. 1954

- ・ステイネット、ロバート [2001 (2000)]、『真珠湾の真実：ルーズベルト欺瞞の日々』、文藝春秋、2001年6月、原著=Robert B. Sinnett, *Day of Deceit: the Truth about FDR and Pearl Harbor*, Free Press, 2000
- ・仲摩照久 (編著) [2023 (1932)]、『日米戦うべきか〈復刻版〉』、ダイレクト出版、2023年3月、初版=雑誌『世界知識』増刊、誠文堂新光社、1932年4月、GHQ 禁書
- ・中山忠直 [2024 (1939)]、『我が日本学〈復刻版〉』、ダイレクト出版、2024年10月、初版=嵐山荘、1939年7月、GHQ 禁書、
- ・西尾幹二 [2008-2015]、『GHQ 焚書図書開封 全12巻』、徳間書店
- ・長谷川泰造 [2021 (1944)]、『ユダヤの対日謀略〈復刻版〉』、経営科学出版、2021年10月、初版=晴南社、1944年9月、GHQ 禁書
- ・福澤桃介 [2022 (1932)]、『西洋文明の没落：東洋文明の勃興〈復刻版〉』、2022年11月、初版=ダイヤモンド社、1932年7月、GHQ 禁書
- ・ミラー、エドワード [2024 (1991)]、『オレンジ計画：アメリカの対日侵攻50年戦略』、沢田博 (訳) 経営科学出版、2024年8月、原典=Edward S. Miller, *War Plan Orange: the US Strategy to Defeat Japan, 1897-1945*, the US Naval Institute, 1991
- ・山下英次 [2023]、『日本よ、^{れっき}歴とした独立国になれ：アメリカの戦勝国史観から脱却する時は^{いま}令和』、ハート出版、2023年8月